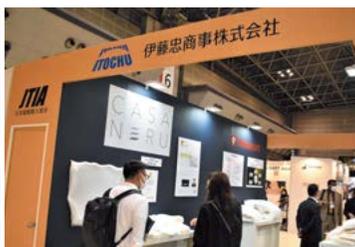


# 第13回 FaW TOKYO (ファッションワールド 東京)[秋]

2022年10月18日(火) - 20日(木)の3日間、東京ビッグサイトにて第13回 FaW TOKYO (ファッションワールド 東京) [秋]が開催されました。出展した会員企業・団体(機関名五十音順: 伊藤忠商事株式会社、蝶理株式会社、帝人フロンティア株式会社、豊田通商株式会社、日本繊維輸入組合、三菱商事株式会社)を取材しましたので、ご紹介します。



伊藤忠商事株式会社

(左 RENU® プロジェクトブース、右 寝装リビングブース)

蝶理株式会社



帝人フロンティア株式会社

豊田通商株式会社

(左 豊田通商グループブース、右 COTTON∞ブース)



日本繊維輸入組合

三菱商事株式会社

本誌で掲載しきれなかった展示写真等を月報オンラインで掲載予定です。  
<https://www.jftc.jp/monthly/>



伊藤忠商事株式会社 (FaW TOKYO (ファッションワールド 東京) 2022 [秋] 内 第2回サステナブル ファッションEXPO [秋] に出展)

# RENU® プロジェクト

## カサネル(CASANERU)、カポック(KAPOK)、PrimaLoftを使用した寝装用品

当社はRENU®プロジェクトブースでケミカルリサイクルポリエステル素材RENU®を紹介した。RENU®プロジェクトは、ファッション産業の大量廃棄問題に対して、廃棄繊維や不要となった衣料品をリサイクルすることなどによって、さまざまな解決策を提供し、生産者、ブランド、消費者とともにファッション産業の新しいビジネスモデルやサーキュラーエコノミーの実現を目指すもの。RENU®は生産工程で出てしまう余った布や裁断くず、また廃棄されるはずだった古着などのポリエステル繊維を原料とするリサイクルポリエステル素材で、ケミカルリサイクルという化学的な手法により原料の持つ色や雑物などを全て除去しているため、染色性・発色性に優れるなど高品質なポリエステルにリサイクルできる。環境負荷を低減しつつ、生地 の性質や織り方の変化にも対応でき、衣料品だけでなく、タオルやランドセルなどバラエティに富んだ繊維製品に加工できる。2022年4月からは繊維製品のライフサイクル長期化を図るための新しい取り組みとしてWear to Fashionプロジェクトを開始。店頭や自治体からの衣料品回収にも力を入れている。



RENU®の展示コーナー。リサイクルされたポリエステル素材とは思えないほど肌触りが良く、カラーバリエーションも豊富。

日本繊維輸入組合のブースでは、サステナブル素材であるカポック (KAPOK)、PrimaLoft、独自ブランドのカサネル (CASANERU) を使用した寝装製品を紹介した。カサネルに採用しているノミウォーマー (Nomi Warmer) はストレッチ性、吸放湿性に富む素材。さらに、長繊維を連結して作られている素材なので、中綿の下落・移動が起きず、羽毛や短繊維に比べてほこりの発生を100分の1以下に抑えられるという特徴がある。

### 現場の声

#### RENU®プロジェクト担当

伊藤忠商事株式会社 繊維カンパニー ファッションアパレル第三部  
繊維原料課長 下田 祥朗 氏



RENU®プロジェクトはファッション産業が抱える大量廃棄問題を解決したいという思いから生まれました。2019年3月にプロジェクトを開始して以降、環境に配慮した素材を使用する重要性についてご提案を続けてきました。3年たった現在、国内外のお客さまにRENU®をご利用いただき、数多くの製品が流通しています。こうして展示会場で多様な素材や製品をご覧いただけることをとてもうれしく思います。今まで以上に環境に配慮しなければならない切実な時代が到来しましたが、ファッション産業が発展し続けられる社会をRENU®、そしてお客さまと一緒につくりたいです。本来ファッションはとても楽しいものです。これからもよりサステナブルかつ自由にファッションを楽しめるように、気が付けば皆さんの傍らにRENU®製品がある「自然にRENU®が存在する未来」をつくるのがわれわれの使命だと考えています。

蝶理株式会社 (FaW TOKYO(ファッションワールド東京)2022[秋]内 第2回サステナブル ファッションEXPO[秋]に出展)

## BLUE CHAIN<sup>®</sup>

当社は、糸・生地・製品という繊維産業の川上から川下に至る各段階においてサステナビリティに対応した取り組みを行っており、サプライチェーン全体のサステナビリティ最適化を目指す独自コンセプトであるBLUE CHAIN<sup>®</sup>（ブルーチェーン）を紹介した。BLUE CHAIN<sup>®</sup>は長く複雑な繊維業界のサプライチェーンを線でつなげ、各企業が持つ機能を掛け合わせ、環境負荷の少ない商材や仕組みを生み出す取り組みである。当社で従前から取り扱っていた多様な環境配慮型商材を、BLUE CHAIN<sup>®</sup>としてブランディング。多くの企業と協業することでスケールメリットのある事業を行い、脱炭素対応にかかるコストを低減する。BLUE CHAIN<sup>®</sup> PARTNERSに加盟するパートナー企業は、立ち上げから1年ですでに100社を超えている。



BLUE CHAIN<sup>®</sup>の展示の様子

会場では、回収されたペットボトルを使用した当社オリジナルのリサイクルポリエステル糸ECO BLUE<sup>®</sup>、形状回復性に優れたタフな高伸縮機能糸TEXBRID<sup>®</sup>、北陸産地の加工場で50年以上続く日本独自のPIN<sup>かりより</sup>仮燃加工技術による高捲縮ストレッチ糸SPX<sup>TM</sup>、低温で早く染まる特徴を持つ素材WS<sup>TM</sup>（小松マテーレ株式会社と当社との共同開発）、天然色素と一部化学染料を併用した新自然染め素材ナチュラルダイ<sup>®</sup>、白度が極めて高く塩素漂白剤や余分な還元剤が不要なホワイトキング種<sup>こうけんしめく</sup>の原綿を使用したコットンMILLENNIUM ORGANIC<sup>®</sup>（ミレニアム オーガニック）、サステナブルな取り組みの中で作られるUSA COTTON<sup>TM</sup>など各素材の特徴を採用事例とともに分かりやすく紹介し、これら素材を使用した衣料品の展示を行った。

### 現場の声

蝶理MODA株式会社 代表取締役社長 <sup>やまごし</sup>山越 <sup>やすひろ</sup> 弥須 広 氏

繊維業界で一致団結し、環境や社会課題解決のために貢献することがBLUE CHAIN<sup>®</sup>のテーマです。これまで素材の研究、開発、配送方法など各社で個々に取り組んできましたが、個社で対応するには限界があります。急激な時代の変化を捉え、繊維業界全体で効率よく加速度的にサステナビリティの取り組みを推進するためには、同じ意思を持つ企業の一よりどころとなるプラットフォームが必要です。BLUE CHAIN<sup>®</sup>は、特殊技術を持つ中小企業から販売力にたけた大手企業までのそれぞれが強みを発揮し、業界全体として成長するためのプラットフォームの役割を果たしてくれるに違いありません。



展示会はこのBLUE CHAIN<sup>®</sup>の認知度・理解度を高める大きなチャンスです。蝶理グループは今回3回目の出展となりましたが、展示方法や照明に工夫を加えたことで、蝶理グループおよびパートナー企業さまの取り組みを魅力的に伝えられることができたのではないかと感じています。これからも蝶理グループ一丸となり、業界を支えるさまざまな企業、関係者の皆さまのお役に立てるように、また、繊維素材や製品を消費者の皆さまに安心して購入していただけるように、パートナー企業との皆さまとBLUE CHAIN<sup>®</sup>を育て、BLUE CHAIN<sup>®</sup>と一緒に進化していきたいと思っております。

帝人フロンティア株式会社 (FaW TOKYO (ファッションワールド 東京2022 [秋] 内 第2回サステナブル ファッションEXPO [秋] に出展)

## 環境配慮型素材

当社は、環境戦略「THINK ECO®」を掲げ、「素材からエコにこだわろう」「きれいな空気と海を守ろう」「省エネな毎日を送ろう」という三つの重点目標に沿って、「ECOPET®」「DELTA® TL」「DELTA® freemo®」「Thermo Fly®」等の環境配慮型素材を紹介した。

ECOPET®は、使用済みの衣料品やポリエステル繊維くず、ペットボトルなどを原料とするリサイクルポリエステル繊維。国内有数の長い歴史を持ち、1995年の誕生から2020年3月までの生産実績は累計50万t（ペットボトル換算250億本、Tシャツ換算25億枚に相当）に上る。

フリースに代表される起毛加工品は、洗濯時に繊維くずが出やすい構造の素材と言われている。それらの繊維くずがマイクロプラスチックの原因の一つと考えられており、DELTA® TL、DELTA® freemo®、Thermo Fly®は、ポリエステル長繊維を使用し、起毛加工をせずに軽量で高剛な構造体を作ることで、フリースに似た風合いや保温性を持ちながらも、洗濯時の繊維くずの発生を抑制できる素材である。

近年、カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みが加速し、環境負荷の少ない製品へのニーズが高まっていることを受け、ポリエステル繊維の製造段階におけるCO<sub>2</sub>排出量算出システムも独自開発した。自社工場におけるデータを基に、当社のポリエステル繊維の製造工程で発生するCO<sub>2</sub>排出量を算出することで、削減効果を定量的に評価するだけでなく、環境負荷軽減につながる工程改善ポイントを明確化でき、CO<sub>2</sub>排出量の低減に向けたより良い方策の検討につなげている。



ブースでは、三つの重点目標に沿って  
各種素材を展示

### 現場の声

帝人フロンティア株式会社

衣料マーケティング部 マーケティング課 村田 真結子 氏

当社は、商社としてのコンバーティング力と、繊維の素材開発から製品生産までの技術力を融合させ、お客さまの幅広いニーズに対応したソリューションを提供しています。「せんい」の会社として、原料から製品まで全ての段階で開発が可能という強みを生かし、環境配慮型でありながら高い機能性を持つ素材の独自開発にも注力しています。

地球環境の保全に向けて一企業ができることは限られているかもしれませんが、地球環境に優しいものづくりで「未来の社会を支える会社」になることを目指し、今できることを一步一步前に進めていきたいと考えています。



豊田通商株式会社 (FaW TOKYO(ファッションワールド東京)2022[秋]内第2回サステナブルファッションEXPO[秋]に出展)

# 循環型再生素材、COTTON∞の取り組み

当社は循環型再生素材とCOTTON∞(コットンエイト)の取り組みを2ブースで紹介した。

循環型再生素材のブースでは、繊維to繊維リサイクルポリエステル、裁断くずなどを反毛、紡績したアップサイクルコットン、エアバッグの製造時に生じた端材から作られた高品質リサイクルナイロン素材アブソループ(ABSSOLOOP)、米国BUREO社と提携して回収する廃漁網を原料としたリサイクルナイロン素材NetPlus<sup>®</sup>等を紹介した。NetPlus<sup>®</sup>は当社が20年以上生地を供給している米国Patagonia社に採用され、トレーサビリティを含めたサプライチェーンマネジメントも当社が担っている。

もう一つのブースで紹介したCOTTON∞は、フェアトレードコットンの普及を通じて持続可能な社会を作ることを目的としたソーシャルグッドプロジェクト。使用する糸にフェアトレードコットンを8%以上混入する取り組みであり、ブランド名には「8%」から始める「∞(無限大)」の可能性への期待が込められている。フェアトレードコットンの普及活動や生産者の労働環境改善だけでなく、生産者が暮らすコミュニティの形成を支援し、環境に配慮した持続可能な社会の実現に貢献することを目指している。



NetPlus<sup>®</sup>を使ったパタゴニアのダウンジャケット

## 現場の声

豊田通商株式会社

食料・生活産業本部 繊維事業部 繊維企画グループ 課長補 おにがた 鬼形 ともひで 智英 氏

入社から一貫して繊維事業に従事し、直近ではサステナビリティの取り組みに注力する中で、時代が大きく変わったことを実感しています。社会課題解決のためサーキュラリティを実現する機運が高まったことで、さまざまな企業が業態の垣根を越えて提携する機会も増えています。サプライチェーンがサステナビリティという一つの目的に向かって集まり、輪になって大きな渦を作っていくような気がしています。新型コロナウイルス感染症の流行が人の感性や思考の転換点になったのではないのでしょうか。われわれ商社はあらゆるバリューをつなぎ、ビジネスを磨き上げることを得意としています。新しいビジネスを作り上げる過程で仕事を越えた人間関係を築き、強固な信頼関係のもと、商社らしさを活かしてこの事業を持続可能な社会へとつなげていきたいと思えます。2050年までに廃棄される全ての衣料品が再び衣料品として生まれ変わる機会と未来を創ることを目標に、アパレル業界の課題解決に取り組んでいきます。



豊田通商株式会社

食料・生活産業本部 繊維事業部 繊維企画グループ よしかわ 吉川 ひびき 響 氏

COTTON∞のリブランディングのタイミングで担当になり3年がたちました。繊維素材や製品をお客さまに採用していただくためには機能性やデザインの特徴をアピールポイントとすることが多いのですが、フェアトレードコットンの場合、プロジェクトの理念に共感していただくことを突破口としなければならず、サステナビリティを商品の特性として販売していくことに難しさを感じることもあります。企業や生活者の皆さまにフェアトレードコットンを理解、共感していただける仕組みをどのように作るか、常にアイデアを練っています。新しい取り組みには課題が付きものですが、社内外を巻き込んで事業を成功に導けるよう、まずは自らが前向きに仕事を楽しみ、その熱量を周りに伝えることを大切にしています。フェアトレードコットンの認知度を高め、より多くのお客さまにお取り扱いいただけるよう、日々努力を重ねていきたいと考えています。



日本繊維輸入組合 (FaW TOKYO (ファッションワールド東京)2022[秋]内第2回サステナブルファッションEXPO[秋]に出展)

# 日本繊維輸入組合のサステナビリティ活動について

当組合の委員会の一つであるホームテキスタイル委員会企業が、サステナブル製品を紹介する場として同展に参加した。当組合は、経済産業省所管の輸出入取引法に基づき1972年に設立された公共的性格を持つ非営利団体で、わが国唯一の繊維貿易団体として、これまでも繊維業界のCSR関連活動を推進し、時勢に沿ったテーマで取り組みを強化してきた。2002年12月に経産省の繊維製品リサイクル推進会議（繊維製品3R推進会議に名称変更）の委員として当組合から貿易制度専門委員会（当時）委員長、日本貿易会から商社繊維連絡会実務委員会委員長が参加し、共同で事業を実施。いわき市のNPO法人ザ・ピープルへの衣料品回収ボックスの提供などを通じた協力の他、豪州など海外での衣料品3R調査を行い、結果を「繊維製品3R推進会議」に報告してきた。2018年6月、繊維産業全体で外国人技能実習に係る法令違反を根絶するため、経産省と日本繊維産業連盟を共同事務局とする「繊維産業技能実習協議会」に参画、「繊維産業における外国人技能実習の適正な実施等のための取組」を継続している。2022年9月、日本繊維産業連盟主導により、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」を踏まえ、ILO協力の下、「繊維産業における責任ある企業行動ガイドライン」の策定に参画した。委員会活動においては、黄麻<sup>(注)</sup>製品委員会（2019年に解散）、CSR委員会（旧称：技能実習および取引適正化推進委員会）にてサステナビリティ関連活動を進めてきた。ホームテキスタイル委員会ではこれまでにジャパンテックス、インテリアライフスタイル、環境広場さっぽろ、ニューアースなどの展示会に出展し、リサイクル・カーペットや屋上緑化商材等の紹介の他、海外来場者向けに「インテリア・ビジネス・セミナー」を実施。今回の展示会では委員会企業3社のホームファニッシングを中心としたサステナブル関連製品を紹介した。

注…黄麻（ジュート）とは格子状の織りで、粗い質感を持つ植物由来の天然繊維。麻袋やバッグ、カーテン、家具、アクセサリーなど幅広いアイテムに使用される。

※ホームテキスタイル委員会のメンバー企業である伊藤忠商事株式会社の展示については月報オンラインにて掲載。

## 現場の声

日本繊維輸入組合 専務理事 <sup>もり のぼる</sup> 森 昇 氏

サステナビリティの機運が急激に高まっている中で、EPAなど貿易制度への対応が中心の貿易団体である当組合も変化に対応せざるを得ない状況にあります。繊維業界におけるサステナビリティは環境への配慮を含むトレーサビリティに加え、生産に関係する人々の人権にも対応する必要があります。以前よりも個社ごとに課題が多様化、細分化され、業界共通のニーズを抽出するのに難しさはありますが、組合員企業が、繊維業界で策定した人権・企業行動・取引適正化などのガイドラインに沿った行動がとれるように、セミナーや説明会を通じて、細やかな対応を心掛けつつ、日々組合員企業のお役に立てるよう取り組むとともに繊維業界全体へのサポートができればと考えています。繊維業界は人権や3Rに加え、環境負荷・有害物質、さらにカーボンニュートラルに向けた取り組みなど、解決しなければならない課題が山積していますが、繊維業界の一層の活性化と発展に寄与するために、組合としての役割を深めていきたいと思っております。

三菱商事株式会社 (FaW TOKYO(ファッションワールド東京)2022[秋]内 第1回ファッションDX EXPO[秋]に出展)

# EC商品・レンタル商品の発送・返品・返却サービス 「スマリ (SMARI)」

当社は、既存の物流網を活用したEC商品・レンタル商品の発送・返品・返却サービス「スマリ (SMARI)」を紹介した。

スマリは、関東・中部・関西のローソン等3,000店舗に設置されている専用ボックスから、商品の発送・返品・返却を行うことができるサービス。本サービスは、集荷用の車を新たに手配するのではなく、ローソン等の配送ドライバーが「戻り便(配送終了後の帰路)」を活用して商品を回収する仕組みのため、CO<sub>2</sub>削減に配慮した物流サービスを実現している。



ローソン等に設置されているスマリボックス

利用するお客さまにとっては、スマートフォン一つで手続きが完了するため、伝票記入などの面倒な手続きや店舗でのレジ待ちの手間が省け、商品の発送・返品・返却を簡単に行うことができる。

2022年2月より、スマリQRシールを貼るだけで、ご自宅(戸建て、アパート、マンション)の宅配ボックスから商品を発送できるスマリ宅配ボックス発送サービスの実証実験を開始。現在、東京都一部(葛飾区、墨田区、江戸川区、江東区)と埼玉県越谷市レイクタウンのスマリ対応宅配ボックスでご利用いただける。

## 現場の声

三菱商事株式会社 食品流通・物流本部 物流開発部  
デジタルロジスティクスプロジェクト 栗原 直己 氏

スマリは、「ファーストワンマイル」(新たな発送シーン創出)の観点から社会に新しい価値を送り出したいという思いから生まれました。「かざす(ご利用のサービスサイトにて取得したQRコードを表示)」「貼る(印刷されたラベルを荷物に貼り付け)」「入れる(スマリボックス上部の扉を開けて荷物を投函<sup>とうかん</sup>)」の、たった3ステップで商品を発送・返品・返却することができます。



EC商品、レンタル商品は市場拡大に伴い返品・返却数も増加しており、ECサイト事業者、レンタル事業者の方にとっては、顧客満足度向上に向けた返品・返却サービスの拡充が重要となっています。スマリを通じてユーザーが返品・返却しやすいシーンを提供するとともに、既存物流を活用した荷物発送サービスで、循環型消費社会の構築に貢献していきたいと考えています。